



▲昭和39年 小学校の恩師赤井運次郎翁へ  
文化勲章受賞報告

# 我妻榮記念館

だより

第 14 号

発行日/2009年10月15日

発行/我妻榮記念館事務局

〒992-0045

米沢市中央3-4-38

TEL/FAX 0238-24-2211

## 敬師の心

館長 上村勘二



我妻榮博士  
は、「赤井運  
次郎先生を鳩  
山秀夫先生と

並ぶただ二人の先生、私の今日  
至る恩を受けた先生」と述べて  
おられます。

赤井運次郎先生は、博士の興  
讓小学校四年から六年までの担  
当の先生です。赤井先生は、「四  
年生になって初めての通信簿を  
全科目甲にして渡したところ、  
母上が学校に来られ、教室でい  
つもチョロチョロで落ち着きか  
ないからと、従来乙であった品  
行がなぜ甲になったのかと質問  
された。新しく教わる所は既に  
予習でよく判って居るので、隣  
の同級生に教えてチョロチョロ  
騒ぐので、少しの悪意のない世  
話好きなのだから、素直な勉強  
振りに甲にした。子供を励ます  
方便物に取扱った方が効果があ  
るとも話したら、母上は大いに  
感奮され、同時に本人も大いに  
感じた見え、爾來私を神の如  
く信頼された訳です。将来に望  
みをかけ、益々勉強に興味を覚  
え、大学卒業までいつも一番の

成績を外したことの無い優秀生  
となった」と語られています。  
大学を卒業して、旅行の折に  
必ず旅行先から赤井先生に音信  
をされたり、先生に喜んで頂け  
る物でも見つければ送り届けら  
れました。教え子や会議の同席  
者は、我妻博士がいつも恩師を  
心にかけて敬師の真心を尽くさ  
れていることに敬意を持たれま  
した。

我妻博士は昭和三十九年に文  
化勲章を受章され、米沢市も同  
年に博士を米沢市名誉市民に推  
載しました。帰省された我妻博  
士は米沢駅から真先に夫婦で赤  
井先生の自宅を訪ねられて、「文  
化勲章をいただいたのも先生の  
お陰です。おそらく、家族を除  
いては、先生が一番喜んでくだ  
さると存じます。それを思いま  
すと、この上もない喜びです」  
と語られ、文化勲章受章の記念  
写真を贈られて感謝を表されま  
した。

我妻先生の敬師の心は、上杉  
廣山公以来続く敬師の系譜であ  
り、これからも大切に伝えたい  
心の有りようであると思えます。

## 回想

## 日々の我妻榮⑤

## 我妻榮と

## 音楽学校

名誉館長

## 我妻 堯

米澤では我妻榮が優れた法律家でその学問的功績に対して文化勲章を受章したことは良く知られている。しかし彼がある時期音楽学校の運営に関与した点について知る人は少ない。米澤の郷土史家として有名な松野良寅氏が編集された「我妻榮人と時代」には彼の経歴や親族関係などが詳細に述べられているが音楽学校に関する記述はない。彼が米澤興譲館中学(旧制)を卒業し、第一高等学校(旧制)に入學したおり新入生の隠し芸大会で東京の一中その他を卒業した都会育ちのハイカラ学生達に、斉唱しかなかった榮が二重唱や輪唱を聴いて「ちっともそろっていないじゃないか」と馬鹿にして、後になって恥をかいた話を筆者が披露したことがある(講演集「父を語る」)。



つた。その彼が音楽学校の校長を約四年間、学校法人の理事長を約一年間も勤めたことを知る人は少ない。

筆者の母、緑の父親、鈴木米次郎は明治十八年頃に音楽取調係(現在の東京芸術大学音楽学部)に入學し明治二十一年に卒業した後、高等師範学校附属学校などで唱歌教員として就職し、当時わが国に輸入されつつあった西洋音楽をわが国の教育の中に定着させるために多大の努力を払った。この方面における彼の業績については紙面に限りがあるので省略する。明治四十年五月に神田区裏塚楽町に東洋音楽学校を創立し、音楽専攻を希望する若者に本格的な音楽教育を始めた。この学校の特徴として早くからオーケストラ教育を

試み、更に卒業生に就職の道を開く目的で北太平洋航路の客船に卒業生が乗士として乗り込む道を開いたりした。関東大震災で神田の校舎は全焼したが、雑司ヶ谷に新校舎を建てて移転した。この校舎は米次郎が学校創設の前に創設していた高等師範附属中学校や第一高等学校(旧制度)の卒業生が寄付を募り鉄筋コンクリートの当時としては立派な校舎を贈ったものである。昭和七年には普通科(女学校)を併設し、発展を続けた。その後歌劇の世界などにも多くの卒業生を出した。卒業生の中には黒柳徹子氏、既に亡くなったが、淡谷のり子氏も本校卒業生である。昭和十年代までは私立の音楽学校として国立に負けずに発展を続けたが、不幸にして昭和十五年に米次郎が急逝した。筆者個人は母方の祖父と親しく会話を交わした記憶は殆どない。非常に温和で口数はあまり多い方ではなく、関門トンネルが開通した時には、くぐる為になどわざわざ汽車に乗りに行ったといわれるほど好奇心に富んだ人だったらしい。軽井沢の別荘を訪ねてきたのは勿論、未だ真鶴の別荘のなかった頃に我妻榮が一冬千葉房総の御宿に家を借りて冬を過ごしていた時に、訪ねて来たことを効かった筆者も良く覚えていいる。その後、軍国主義に走った日本政府は昭和十六年に第二次世界大戦に突入し、戦局

が不利になるにつれて軍事政権の締め付けが厳しくなった。西洋音楽の教育は「不要不急」と見なされ、学校は閉鎖の危機に立たされることになった。この時、我妻榮は伝手を頼って中古のミシンを何台も集め、音楽学校を家事裁縫を教育する実業学校に変えることに努力した。即ち昭和十八年に校名を東洋高等実業女学校、学校法人名を、財団法人明正学園と改称した。戦時中の状況を記憶されている方はご理解頂けると思うが敗戦が近い当時のわが国で中古とはいえず十数台のミシンを集めることは至難のことであったと思われる。しかし榮の折角の努力も昭和二十年三月の東京大空襲によって東洋音楽学校の校舎はミシンと共に全焼した。筆者も焼け跡を訪ねたがグラランドピアノが焼けて内部のピアノ線がのたうち回ったように曲がり、断末魔を見るような気分になったことが記憶にある。

敗戦後は、全ての価値観が変わり、西洋音楽教育は「我が世の春」を謳歌できる状態になったが、不幸にして学校は財政難もあり、その復興には時間がかかった。筆者の手元には当時の記録が全くないので、想像と推測でしか述べることができないが、鈴木米次郎は若者の教育に力を注いだ、自分の子どもには音楽教育を施さなかった。筆者の母、鈴木緑は音楽の鑑賞は大好きだったが、自から音楽は学んでいない。ただ独り伯母の稲子が東京芸術大学(現在の)を卒業していたが結婚相手の久保田芳雄は海軍機関中将まで出世した人で、伯母が母校の音楽学校で働いたのは敗戦後のことである。適当な後継者がいなかったことも災いとなり、戦時中に実業学校に衣変した学校を再建し、戦後の教育制度に適合させて短期大学、四年生大学へと改革する迄には長い年月を要したようである。榮は昭和二十年から二十五年十一月まで校長を勤め、二十七年三月から約一年間理事長を勤めたこと記録にある。結論から言えば新たな変革は理事会の改変を余儀なくさせ米次郎の血縁関係にあった人々には全員の去り、新しい経営陣に譲ることになった。従って現在の学校関係者には米次郎のDNAを引き継いだものは一人もいない。四年生の大学の名称は「東京音楽大学」と変わり、昨年(二〇〇七年)に創立百周年を迎えた。筆者も記念式典に招待されて久しぶりに雑司ヶ谷を訪れたが、立派な校舎、講堂が建築され一流私立大学に生まれ変わった。学校執行部の先生や来賓の挨拶では「鈴木米次郎の建学の精神を引き継いで」という言葉が繰り返されていたが、生前の祖父の顔を思い浮かべて何となく空しい気持ちを抑えられなかったことも事実である。

# 来館者のコーナー

平成二十一年四月

受験勉強には、無くてはならない先生の参考書、原稿を見て感激しました。

T O

昭和二十九年に東大の先生の最後の講義（定年直前）を受講し、講義の素晴らしさに感動いたしました。

南

平成二十一年五月

不動産金融業界のストラクチャーリング業務にて「ダットサン」で勉強した知識を使っております。本日先生の生家を拝見し、今後とも一層動んで参りたいと考えております。

M O

平成二十一年六月

今日は時の記念日、上杉鷹山公先人顕彰会伝々の件で立ち寄ったところ、偶然にも我妻菜先生の生家でした。私は、興譲小に勤務した時にも先生の御厚意により児童に多額の

図書費を頂戴し、その他、学問に係る数々の物をいただき、日本そして米沢の偉人として、そのお心を大事にしていきたいと改めて思いました。私は、高橋里美先生の同郷、そしていろんな面で教えを頂いた一人ですが、どちらかと云えば里美先生は哲学面で、お話も固かったもので、凡人の私の心に通じ難いものがありました。その面、我妻先生は親しみ易く温もりが感じられます。

今、先生が勉強された二階の一室、低い座机に向い、背を伸ばすと近藤勇の旗が走る車に少しゆれるのが見えました。米沢の町も、もっと盛んになる事を祈らざるを得ません。

渡部 蓉

平成二十一年七月

法学部で学んだ者として、我妻先生の生家の、しかも勉強された部屋に来ることができ、大変光栄です。

石原 俊之、麻貴子

平成二十一年八月

現在大学の法学部で学んでおり四回生となりました。昨年のこの時期にもこの場所を訪問させて頂きました。が、我妻先生の資料を見たときに判例カードや、詳細な年表などを作成して学問に励んでおられた先生の努力を知り、功績の裏側にある努力の大きさに触れて頭の下がる思いでした。ここで感じた新鮮な気持ちを自分のモチベーションにして、法律家への道を目指して、日々精進していきたいと思えます。

橋本 敏之



▲文化八年鉄砲屋町割図



# 我妻榮児童文化賞

米沢児童文化協会主催の第16回我妻榮児童文化賞の表彰式が、去る2月21日(土)ホテルサンルート米沢でおこなわれました。今年から中学生のみが対象となり、表彰式には榮先生のご次男で我妻榮記念館の名譽館長である亮氏や、安部米沢市長など多くのご来賓が見えられ、付き添いの先生や保護者が見守る中、2名の受賞者に小林会長、高森先生から表彰状と記念品が授与されました。

大池清士君(米沢二中2年)は、「第33回小さな親切作文コンクール」で特別優秀賞を受賞したことに対してです。これは全国からの応募、32674点の第3位に該当する優秀な内容です。大池君は、小学校5年生の時も、書道の成績で我妻児童文化賞を受賞しており、小さな親切作文でも何度も優秀な成績を取っています。

神田沙里さん(米沢七中3年)は、「中学生税についての作文コンクール」で、応募数51万点の第6位にあたる「全国納税貯蓄組合連合会会長賞」を受賞し



表彰式の様子。前列左から受賞者、小林会長、高森先生、安部市長、亮氏、次男、大池君、神田さん。



「あの日 あの時」米沢有為会雑誌(寄稿 その三)

自由が平等か 我妻 榮

是の如く此の思想は公法的方面一國家對個人の方面一に著しく表れたのみならず私人相互の間にも種々の形式で表れて来た。國家は人民の私的生活に干渉すべきものではない。人民は只その欲するが儘に互に法律生活を営むべきものである。人民相互がどんな取引をなさうが、どの様な約束を結ば

うが全々自由であると云つたのが法律學上所謂契約自由の大原則である。又何人も自分の物は自由に処分して、敢て他人のおせつかいを許さないと考へたのが所有權不可侵の原則である。而て此等の原則は彼の英國の産業革命時の思想たる親方組合の専制を打破して総て總ての人をして自由にその欲する營業に就かしめ、自由に職工を雇ひ、自由に値段を勉強せしめねばならないと云ふ主張と合して茲に營業自由の一大方針として現出して来たのである。

自由が平等か 我妻 榮

言ふ迄もなく人間は自由を許さなければ活動するものではない。會計が平等でなければ競争する氣力を失ふものである。五ヶ條の御誓文の御聖旨「官武一途庶民に至る迄各々其志を遂げ人心をして倦まざらしめん事を要す」との奨励がなければ社會の萎靡沈滞するのはもとより當然の事である。中世暗黒時代は正に此現象であつた。されば一度個人が覺醒して自由平等の礎を固むるや職業も學問もお好み次第、しかもその得たる所は所有權の不可侵として自分の思ふ儘にする事が出来るのであるから社會には猛烈なる競争が起り過剰たる活氣を呈し、政治學術産業悉く目醒しき發達をなし、茲に二十世紀の燦爛たる文化を産み出すに至るのである。思へば佛國革命は實に近代文化の搖籃であつたのである。

我妻 榮

今日今日の社會を見れば此等「契約の自由」「所有權不可侵」「營業自由」等の原則が善ながらに行はれて居るであらうか? 甚だ覺えないものである。

第一先年實施せられた工場法はどうであらうか、何歳以下の少年少女は働かざるを得ないとか、工場主が一定の衛生設備をなし、所定の休憩時間を與へなければ労働者を使ふ事が出来ないとか云ふのは明に契約自由の原則を制限したものと云はなければならぬ。又樓主と女とが自由に契約をするのは何等の妨かざるべきに、履行を義務とする契約は無効であるとか一定の年限女女の自由を全然拘束する意味を含む約束は効力がないと云ふ所謂娼妓自由廢業の問題を亦明に當事者の意思の自由に干渉する規定と見なければならぬものであるまいか。其他今日では假令自分の所有物でも決して勝手にする事が出来なくなつて居る。一例を挙げれば銀座の中央に空屋敷を持つてこれに草花々として置く者があつたら法は決して之を許さないものである。その他にも之に類した例としては鑛山採掘權を持つて居り乍ら鑛物採取をせず、專賣特許の權を持つて居り乍ら一定の年限これを製造販賣せざるものは其權利を取り上げられるのである。既に權利として與へつゝ之を當人の自由勝手にする事を許さないとは一見善しき矛盾であり、佛國革命の自由の原則は少くとも形の上には於ては重大なる變更を受けた事を感じざるを得ないのである。

今日今日の社會を見れば此等「契約の自由」「所有權不可侵」「營業自由」等の原則が善ながらに行はれて居るであらうか? 甚だ覺えないものである。

## 記念館のスタッフ

- よろしくお願ひいたします。
- 名譽館長 我妻 亮
  - 顧問 松野 寅
  - 顧問 小田 久
  - 顧問 今田 勸
  - 館長 鈴木 幸
  - 事務局長 上村 一
  - 館長 鈴木 幸
  - 事務局長 上村 一
  - 管理 鈴木 幸
  - 運営委員 遠藤 秀
  - 運営委員 安部 英
  - 運営委員 佐藤 京
  - 運営委員 五十嵐 節
  - 運営委員 高橋 和
  - 運営委員 本多 彦

## 開館日のご案内

金曜日、日曜日、月曜日を開館日とします。

開館時間帯は

金曜日、日曜日が午後1時から4時まで、月曜日が午前10時から午後4時までです。

入館料 無料

